

委託事業実施内容報告書

平成21年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 一般社団法人 ピア

1 事業の趣旨・目的

15日間でひらがなカタカナを一通りマスターし、日本語日常会話で積極的に意思疎通できるようになることを目的とする。それを以って日本で生活するために役立つ日本語学力の基礎を短期習得する。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	出席者	議題	会議の概要
平成21年 5月15日	津田有也 松井一哲 佐藤真琴 柴田美紀 原田知子 鈴木理恵 CSN 学生 3 名	初回顔合わせ プロジェクト内容について情報共有 各自の業務分担 今後のスケジュール	各自の所属と役割の再確認 連絡に使うメールアドレスを新設、これで生徒の連絡も行う ブラジル人向け広報にラジオフェキスへ協力要請を決定 教室運営・事務局・ボランティア・広報に役割分担 次回は 5 月 22 日
平成 21 年 5 月 22 日	津田有也 松井一哲 佐藤真琴 柴田美紀 原田知子 鈴木理恵 CSN 学生 3 名	各自担当役割の進捗 生徒募集状況進捗 浜松市のブラジル人現状について、情報共有 テキストの製本作業日決定	生徒はラジオ放送と口コミですぐに定員となり、要望があるためクラスを増やす ブラジル人は帰国する人が多い中で子どもがいると教育のために残

			らざるを得ない人も多い。しかし職がない、ここを軽減するために教室を足がかりにしたい。事務局電話を松井(講師)の携帯へ転送する。製本日は5月30日まで毎日18時~2時間程度行うことにする。
6月30日	津田有也 松井一哲 佐藤真琴 柴田美紀 原田知子 鈴木理恵 CSN 学生3名	講座終了後1回目会議 講座の書類まとめ 気づきの共有 今後につなげるためにできる活動について	修了後も自費での継続希望者が多く、継続することになる(1回500円、自費) 書類まとめと経費計算 今安価な日本語入り口講座と集う場所提供の重要だと意見
8月30日	津田有也 松井一哲 佐藤真琴 柴田美紀	媒体発行後の反応について	各公共機関に発行済み一部学校(浜松学院大学と文化芸術大学)では学生にも配布された。PDFでブログなどにデータアーカイブすることを検討。その後講師松井氏のブログにアップ。

【写真】(会議風景の写真を1~2枚参考に添付して下さい。)

3 日本語教室の開催について

- ① 日本語教室の名称 ポルトガル語で説明~ゼロから日本語
- ② ひらがなカタカナで読める・口語で話せるための基礎講座
- ③ 開催場所 静岡県浜松市 浜松南公民館
- ④ 学習目標 15日間でひらがなカタカナを一通りマスターし、日本語日常会話で積極的に意思疎通できるようになる。日本で仕事をし共生していくための日本語基礎の短期習得
- ⑤ 使用した教材・リソース 別途添付
- ⑥ 受講者の募集方法 チラシ別途添付

配布場所 浜松市ポルトガル人向けインターネットラジオ局

ラジオフェニクス

(※どこでどのような媒体を使って募集したかを記載。なお、募集のチラシ等があれば添付すること。)

⑦ 受講者の総数 21 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

⑧ 開催時間数(回数) 65 時間 (全 15 回)

⑨ 日本語教室の具体的内容

別紙日報を添付

⑨ 特徴的な授業風景(2～3回分)

別紙日報と作成した配布媒体

⑩ 活用した日系人等(日本語を母語としない)の名簿

氏名	母語(国籍)	来日年(日)数	参加回数	当該教室での役割
ユキエナカザト	ポルトガル語(ブラジル)	15 年	15	授業補助, 通訳
ナカエサイトウ	ポルトガル語(ブラジル)	15 年	12	授業補助, 通訳
チアゴヤマグチ	ポルトガル語(ブラジル)	15 年	15	授業補助, 通訳

⑪ 支援者の名簿(⑦以外)

氏名	所属	専門分野及び日本語教育に関する資格	参加回数	当該教室での役割
CSN 学生	Collage student network	静岡文化芸術大学学生、ボランティアネットワークによる指導	15 回	アドバイザー補助
佐藤 克昭	浜松学院大学地域共創学科学科長・教授	地域共創学科教授	2 回	オブザーバー

4 事業に対する評価について

① 当初の学習目標の達成状況

ひらがなカタカナの書き取りを真剣にやってくる生徒が 9 割。CSN(大学生ボランティア)の積極的な介入で各個人の継続学習意欲が向上した結果。

ひらがなカタカナがよめる、かける、を目標に小テストとゲームを繰り返したことで終了時にはほとんどの言葉が読めるようになった。ただ書くことはやはり難しい生徒もいた。

② 学習者の習得状況

積極的な学生が多く、習熟度は高かった。

③ 日本語教室設置運営の効果, 成果

短期集中のため学習・復習・フォローアップが一度に行えたことが今回の講座の大きな特徴だった。このために家庭学習も含めて短期的に言語習得できた。

④ 地域の関係者との連携による効果, 成果 等

子育てネットワークとの連携で、今後はブラジル人の子供を受け入れるためにブラジル人の託児者教育のプログラムを検討することになった。

また地域大学浜松学院大で秋から新しいブラジル人クラスが始まることを学生に伝えられたので、それに通う意欲をみせる受講者もいた。つながりがかたよりがちなブラジル人受講者にとり地域のいつも交わらない仲間との交流は、より地域に溶け込む一歩になったようだ。

⑤ 改善点, 今後の課題について(具体的に記述する。)

a. 現状

ニーズはあるが単発でおわってしまう。

事業としてはなりたない。修了後の職業案内まではできなかった。

b. 今後の課題

アンケートよりコミュニケーションとして、仕事上で人間関係を円滑にするための日本語、という目標は達成したものとする。もう一歩踏み込んで仕事能力に直結した講座も行いたいと希望があったことも事実である。地元企業に就職案内をしたが、景気動向もあり色よい返事はもらえなかった。

c. 今後の活動予定, 展望

講座の講師が個人的に教室を継続することになった。これをボランティアでフォローしていく。また次年度事業についても検討していく。

つながりのできた学生とはインターネットを通してコミュニティサイトを構築した。

③その他参考資料

授業用テキスト一式

媒体 1 式

写真 1 式

アンケート一式

※写真は、肖像権等に配慮し、差し支えないものを添付すること。

5 / 28

午前中は「2時間で話せる日本語」の11ページ、レッスン1まで終了し、基本的な日本語の全体像を捉えさせた。午後はひらがなの学習を行い、は行まで終了。初日だったため、全員がまだリラックスせず堅い感じだった。

5 / 29

午前中はまず昨日の復習を行い、その後自己紹介の練習や「昨日何をしましたか。」等の質問と答えを勉強した。午後は学習者の到達度別に3グループに分けた後、全員ひらがなの清音を「ん」まですべて何とか終了した。

6 / 1

午前中はひらがなの学習を行い、ひらがな語の絵カードの展開も行った。一部の生徒はひらがながなかなか覚えられず苦勞した。午後は自己紹介を中心に会話を行い、ひらがなの濁音の学習も行った。

6 / 3

午前は「これは何ですか。」「これは誰のですか。」といった文や、それに対する答えについての会話を学習した。午後はひらがなの濁音を学習し、全員で昨日何をしたか等について日本語で自由に会話をした。

6 / 4

午前は最初に曜日や時刻についての表現を学習した。その後日本語の学習方法や暗記のコツなどについて話し、実際に単語リストの暗記も行った。午後は「ぬ」「ね」など類似したひらがなの区別について学習したり、自分の趣味などについての会話を行ったりした。

6 / 5

午前は時刻についての表現を学習し、日本語の単語の暗記コンテストを行った。午後は暗記した単語の確認を行い、また全員で暗記テクニックの共有を図った。その後ひらがなを用いた語を読ませた。

6 / 8

これまでに学習した内容についてテストを実施した。「て形」について学習し、実際に「て形」を用いた会話も行った。

6 / 9

テストについての振り返りを行い、その後最重要と思われる「て形」についての復習を行った。日本式のアルファベットの読み方や難しい発音についても指導した。

6 / 10

形容詞について学習した。その後グループに分かれて、日本語の授業や日本での生活などといったテーマについて、会話をさせた。

6 / 11

午前は日本語の動詞の活用について学習した。少しつめこみすぎたせいか、学習者には難しかったようだった。午後は日本の地理や文化についての話を交え、会話をさせたところ好評だった。形容詞の復習も行ったが、楽しく盛り上げることができた。

6 / 12

存在文「あります」「います」を学習し、その使い分けを繰り返し練習した。午後はいつもと気分を変えて公民館の外へ出て、歩きながら午前に習った文型等を使用して自由に会話をさせ

た。

6 / 13

「あります」「います」の復習をし、その使い分けをさらに練習した。その後は、「て形」などを使った許可・禁止などの表現を学習した。最後にカタカナを学習し、よく似た字の識別などについても練習した。

6 / 17

2つ以上の単文を組み合わせて、長い文を作る展開を行った。「ない系」や「た形」「辞書形」の導入や練習も行い、「～たことがあります」「～ないといけません」等の文型も提示し、ドリル形式で練習した。

6 / 18

最終回を前にここまで習った内容についてのテストを行った。午後はちょうど会場内で浜松大空襲犠牲者供養のための法要が行われており、法要を見学したり、戦争についての展示を見たり、お坊さんや空襲の生存者の方のお話を伺う等の展開も授業の中に採り入れた。

6 / 19

昨日のテストについての振り返りを行い、「普通形」の練習や連体修飾の文を作る学習等も行った。最後は閉講式とちょっとしたパーティーを開催し、学習者が持ち寄ったお菓子や料理等を食べながら歓談した。



